

# 追手門学院の歴史発掘

追手門学院一貫連携教育機構  
学院志研究室調査員

横井 貞弘  
(中高14期)



詳細  
目録

本誌前号(91号)でも予告していただいた様に、大学將軍山会館の Newsletter(1~3号)に報告された内容を中心に、その主な記事を紹介させていただきます。尚記事の全文は、会のHPにリンクされていますので参照することが可能です。

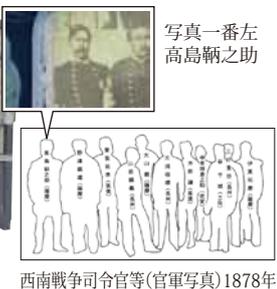
## 1. オーストリアで発見された高島鞆之助の写真付き小物入れ (Newsletter 1号記事)

この小物入れはオーストリアで見つかったもので、高さ20cm程度の大きさです。現物は大学の將軍山会館に展示されています。注目すべきはその扉に添えられている写真です。写真の左端には本学創設者・高島鞆之助の32才の姿が映っています。他にも西南戦争に従軍した

当時の司令官たちが見られます。その写真には大山巖や日本大学を創立した山田顕義など、明治維新の重鎮の人物達が見えます、高島は西南戦争の功績により、明治



西南戦争古写真小物入れ

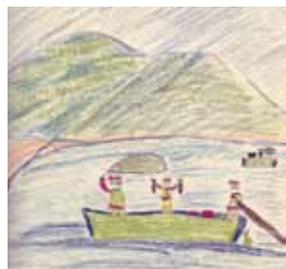


西南戦争司令官等(官軍写真)1878年

12年にフランス・ドイツに出張してウィルヘルム皇帝やモルトケ将軍と面会しています。その方々に招待された際、贈呈したのではと想像されます。いずれにせよ134年ぶりに日本に戻ったこととなります。

## 2. 李玖殿下の絵(Newsletter 1号記事)

戦前から戦後にかけて偕行社付属小学校校長であられた山口一校長の御遺族(同三女・大野孝子氏)が保管されている李王殿下関係などの資料の寄贈を頂きました。殿下が山口校長に送られた手紙や、在学当時に描かれた絵などの貴重な資料が含まれています。李王殿下は朝鮮王朝最後の皇太子の子息で戦時中、小学校(偕行社付属小学校)に在籍されていました。また李王殿下の在学当時の様子を伝える当時の映画フィルムが、学院100周年記念映画に含まれています。またこの映像(映画)は將軍山会館にて見ることができます。



絵に李王殿下直筆の解説があります。「とあみうつ、とうさんの、うでぶりうまいだろう子供は、さかなをもちながら、ばんざい ばんざい 手を上げる。」

## 3. 耳原公園の明治天皇碑(Newsletter 2号記事)

茨木校地は大学開学や高校移転に伴い新たに開発されたキャンパスですが、実は古くから学院と関係のある地だったのです。將軍山会館にも展示がありますが、学院の創設者・高島鞆之助先生および設置者・今井兼利少将らの名前が刻まれている記念碑が、茨木キャンパスのすぐ近くの耳原公園の山頂に設立されています。この碑は、高島鞆之助らが司令官として指揮し、明治天皇が明治20年2月16日に耳原の地で行われた天覧野外演習を視察されたことを記念するものです。その意味で、茨木・安威の地も学院に縁のある場所と言えるでしょう。このことは地元の方々にもあまり知られていないようです。

今回はその石碑の清掃と拓本を行いました。石碑の表にある銘文は古くは「明治天皇大阪行幸誌」P8~9(大正10年大阪市役所発行)にも掲載されています。



茨木耳原公園・幣山記念碑

幣山記念碑・碑文(表)  
明治二十年 車駕西幸 月十六日駐 蹕于此地 親覽近畿鐵道兵對抗運動此地西北負山東臨沃野相連可敵六州之山實爲用兵之要地矣地父老榮之相謀作碑以永存遺蹟於不朽銘曰  
治不忘亂 相地閱兵 我武維揚 威震八極  
不蹙不崩 斯山斯丘 聖壽百年 永思無疆  
明治二十年歲在丁亥八月 日柳政忠謹撰  
大阪府知事從四位建野郷三峯額山田孝三郎拜書



記念碑 表面



記念碑 裏面

碑文  
裏面 該当部分のみ表示  
建碑賛成  
司令官陸軍中將才磨  
高島鞆之助  
旅团长陸軍少将  
今井兼利

## 4. 井上毅文部大臣の大阪偕行社附属小学校訪問 (Newsletter 3号記事)

天野利武学院長が小学校『追手門』誌(1968.2刊 同50号)に、明治27年4月17日に井上毅文部大臣が大阪偕行社附属小学校を視察していることについて、執筆されておられます。同文献で井上毅大臣を「文明の名に価する人物」と評されています。また井上大臣は旧憲法制定上の実質的な役者であるとともに、明治期に於ける日本の教育制定を行った人物です。このことは学院の70年志p411に「明治27年4月17日文部大臣井上毅氏来校、視察せられた。」との、わずか一行の記述に注目されたことに由来している。さらに「明治29年4月にも再び来校、視察せられた。」とあるがこれは井上毅大臣が明治28年3月に没しているので誤りであると指摘されています。執筆当時これ以上の資料がないので、後日改めて報告したいとも書いておられます。このこと裏付ける文献を見つけることができましたので報告したい。

偕行社附属小学校  
十七日午前八時二十分大臣は片岡書記官、小山書記官と共に馬車に乗り、隨同偕行社に接り、岡野旅團副官の先導に由りて、樓上の休憩所に入り、此所に於て山根同校校長、上森同校長等と暫時談話の後、同校長の案内にて小学校に移り、生徒の讀書作文、算術、英語、器械体操、中隊教練、軍歌、徒手体操及びその前後に激芳語の各教壇、寄宿舎等をも巡視し、夫れより再び偕行社に還り、休憩所大臣は同校長に対し、同校の教育方法、其れ當を得たるは本大臣も頗る満足に思ふ、特に操練の規律厳格なるは賞賛すべしと語り、且つ生徒の休養表等を得たとし、求め同校長に追つて送付せんことを告へたり、斯くて大臣の同校を去らんとするや、玄関口まで見送れるを待校等に向かり丁寧なる挨拶をなし、且つ同校長へは職員へよるしくの言葉を渡し、且つ東成郡鶴橋村に向ふ出発したり。隨伴は、護衛師範学校長、林課長、新部區等なりき。但し、開校三十年は、同校に於ては、文部大臣の巡視は今回を以て之に唯ならんとすといへり。



「私立大阪教育会雑誌」97号  
1894年(明治27年)  
P9(原文引用)

井上毅文部大臣の偕行社訪問の時期、当時の社会情勢を反映するように教育の重要性が鑑みられ、日本各地に色々な教育関係の雑誌が発行されていたようである。その一つである「私立大阪教育会雑誌」(大阪大谷大学所蔵)を調べると、次の様な記事が発見できた。

この文章をどの様に判断されるかは、天国の天野先生におまかせする他ないが、少なくとも、大阪偕行社附属小学校を訪問した事実は証明されたことになる。

### 追記

その後の調査などにより、学院歴史上興味ある事が判明している。例えば、大正11年偕行社付属小学校校舎改築記念として、配布された砲弾薬製花瓶が発見されたり、大手前中高理科室に保存されていた鳥剥製が昭和7年の改築写真に写っていたものと同じであることが判明されたなどです。機会があればこれらについても報告したい。